

平成29年度 6月号



# 新座二中だより

新座市立第二中学校  
新座市野火止 7-17-10  
電話 048-477-1212

<http://www.c-niiza.ed.jp/j-daini/>

## 「人間生活とは 努力することにある」から学びます

校長 田村 和昭

太陽の光が貼り付いたように若葉が輝く、緑溢れる季節になりました。まぶしいほどのその美しさに、日本に生まれてよかったと思います。

先日、明治神宮の森を散策する機会がありました。多くの人を訪れており、そのほとんどが外国人観光客と思えるほどでした。神宮を囲む森の自然の息吹と神秘的なすばらしさは、世界中の人を虜にしています。

この明治神宮の森の設営に携わったのは、埼玉県出身の日本の「公園の父」といわれる林学博士 本多静六です。

### 「公園の父」本多 静六

本多静六は、慶応2年（1866年）現在の埼玉県久喜市に生まれました。9歳の時に父を亡くし、そのため経済的に苦しい生活を強いられます。しかし、静六は向学心を失うことなく、明治13年（1880年）14歳の時に志を立て上京し書生となります。昼夜勉強に努める一方、春から半年間は帰省して、農作業や米つきに励むという変則的な生活を送ります。

3年後に現在の東京大学農学部に入學。卒業後ドイツに留学し学位を取得。欧米各地を視察のうえで帰国し、母校東京大学農学部の助教授、さらに教授となります。

その後静六は、林学博士として日比谷公園を皮切りに、埼玉県の羊山公園、大宮公園、森林公園等明治期以降の日本の大規模公園の設営・修繕に携わります。

### 明治神宮の森

さて神宮の森の話に戻ります。東京ドーム15個分もの広さを誇る神宮の森ですが、

実は人工的に造られたもので、その頃の予定地はわずかな雑木林と草ボウボウの荒地でした。

植物や昆虫、鳥や動物の保護や横を走る山手線の汽車の煙から森を守ること、マイナスイオンで人々を癒やすことなど環境への影響を考えたうえでの立派な天然林を造るという壮大なプロジェクトだったのです。

貧しさに負けず、衰えることのない向学心が、静六の夢を叶えたのです。静六は残した本の中で、こんな風につづっています。

**何でもよろしい。「仕事を一所懸命趣味になるくらい打ち込んでやる」これが、凡人の自分を大成させる唯一の方法である。**

**世の中には天才だけにしかできぬ仕事というのはあまりない。努力しない天才より、努力する凡才の方が必ず勝る。人間生活とは、努力することにある。その努力こそ幸福の元である。**



### 首かけイチヨウ ～エピソード～

静六は、道路拡張により伐採されることになった日比谷見付のイチヨウの大木を、日比谷公園に移植した。当時移植は不可能という声が多かったなかで、自分の首にかけても、と実行した。推定樹齢400年。

公園内レストラン松本楼の脇にある。